



議会だより

No.34

2014年4月16日 発行
発行 仙北市議会
編集 仙北市議会
広報編集・特別委員会



2月定例会・主な内容

- 市議会2月定例会報告…2～3
- 一般質問…………… 4～10
- 各常任委員会報告 ……11～14
- 市立角館総合病院建設に関する
調査特別委員会報告……………15
- 編集後記…………… 16



西明寺小学校卒業式

第1回 仙北市議会2月定例会

平成26年
2月18日～3月12日

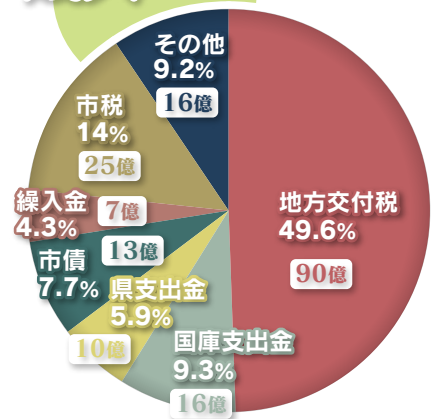
木質バイオ関連予算 一般会計、介護保険予算修正して可決

平成26年度	一般会計	181億5192万4千円
	特別会計	113億4330万円
	企業会計	117億8588万1千円
	合計	412億8110万5千円

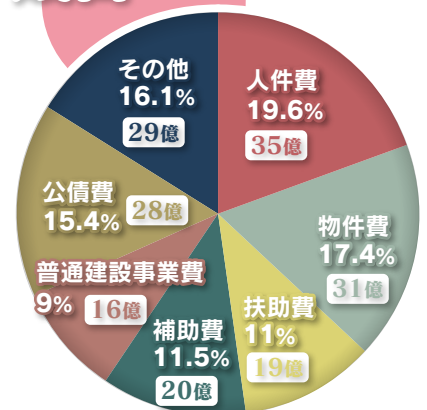
市長の施政方針から
市長から26年度一般会計予算を提示するに当たり施政方針

第1回2月定例会は2月18日から3月12日まで23日間の会期で開催された。
市長提出議案が61件、議員提出議案5件、諮問1件、請願1件、その他1件の計69件であった。
本会議での一般質問、予算常任委員会での会派質疑においても木質バイオマス発電事業についての批判意見が多く、「議案第18号平成26年度仙北市一般会計予算」、「議案第25号平成26年度仙北市介護保険特別会計予算」の修正動議が出され、採決の結果賛成多数で可決された。
市長報告、請願を除く68件は原案可決並びに可と決定であった。

歳入の概要



歳出の概要



※億未満は省略

四つの基本方針
一 産業振興と雇用拡大で市民所得の向上を図る。特に生産原料に地場農産物を使用する可能性が高い食品関連企業についてはその育成と誘致に全力で当てる。
二 組織と行財政のスリム化と統合庁舎に向けた取り組みを進める。
平成30年に予定している

針が述べられた。
東北はいまだ震災の中でもがいている。各自自治体が独自のビジョンを持たないと沈んでしまう。仙北市は23年度統計では一人当たり所得額は4年前に比べ2つ順位を上げ25市町村中20位となった。
しかし、所得に連動できていないし、ゆとりを感じない状況でもない。引き続き公約実現に向け努力する。

統合庁舎を見据えた組織の在り方、適正な職員数と事務事業の抜本的な見直しを行い、段階的に実施する。26年は即対応が必要なもの、危機管理、災害対応力の強化、機動性を高めるため総務部に総合防災課を新設する。
三 市民と協働のまちづくり。地域運営体、各種団体の連携、統合を視野に集中支援の在り方を協議する。事務事業の見直しによる民間移転・廃止等が不可欠である。
四 人口減少と少子高齢化対策への挑戦。医師確保や病院整備等。又男女が出会いえる場、環境づくりの為、各企業と地域の相互連携の仕組みをつくる。

予算常任委員会報告

予算常任委員会は2月28日、3月11日の2日間、分科会は3月4日から7日まで開催された。

案件は議案第18号26年度一般会計予算と議案第36号25年度一般会計予算の2件であった。

■ 主な予算の内訳

■ 総合産業研究所費

541万4千円
イチゴの試験圃設置。たまねぎ・にんじん・トマト等の一次加工品調査。販路拡大・6次産業化の推進

● 薬用作物等産地化推進事業費 95万1千円
生薬メーカー「ツムラ」と連携し薬用作物等産地化・組合化の推進

● 企業誘致対策事業費 50万円
誘致予定企業「株式会社食品工業」の土地造成工事費

● シニア地域づくり人に関する調査研究事業費 378万円

ANA総研と共同で体の不自由な人、外国人向けにわかりやすい観光地にするための調査研究費

● 臨時福祉給付金給付事業費 1億1869万5千円
消費税率引き上げに対する低所得者への臨時福祉給付金

● 地域運営体活動推進交付金 4500万円

● 在宅子育てサポート事業 225万4千円

● 「子育てサポーター券」の発行 275万4千円

● LED照明導入事業費 545万9千円

25年度に更新した町内会等のLED街灯の維持管理費等

● 仙北市公共交通体系ビジョン策定事業費 13万6千円

買い物、病院などへの交通手段のあり方を調査する

● 食材放射性物質測定事業費 227万3千円

● 国民文化祭推進事業費 7618万6千円

■ 主な質疑

一 総務文教分科会

○ 地域力ステツプアップ事業と地域運営体活動推進費交付金について

○ 公共交通体系について

○ 補正予算のあり方と繰り越し明許について

二 市民福祉分科会

○ 子供への医療費助成について

○ 消費費について

○ 高齢者世帯等除雪支援事業費について

三 産業建設分科会

○ 企業誘致対策事業について

○ 岩瀬北野線整備事業の進捗率について

○ 農業政策について

○ 木質バイオマス施設管理運営費について
(八柳良太郎記)

■ 木質バイオ予算は修正

仁政クラブより修正案。

議案第18号26年度一般会計予算バイオ管理運営費3830万8千円、第25号26年度介護保険予算から921万2千円をそれぞれ減額修正され可決された。半年分の予算のみ認めるとの理由。

平成26年 第1回 仙北市議会定例会賛否が分かれた議案 (招集日：2/18 最終日：3/12)

凡例：賛→賛成、反→反対 欠→欠席 退→退席 (議長は、法律に定める特定のケース以外では表決をしないことになっています)

議案番号	会派及び氏名等 件名	議決月日	議決結果	民 政 会 議					仁政クラブ					翠 会					侍 志 の 会					会派に属しない議員	
				伊藤邦彦	阿部則比古	安藤武	狐崎捷琅	門脇民夫	佐藤直樹	黒沢龍己	田口寿宜	高橋豪	稲田修	小林幸悦	藤原助一	田口喜義	荒木田俊一	真崎寿浩	小田嶋忠	八柳良太郎	青柳宗五郎	平岡裕子	熊谷一夫	高久昭二	
				賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛
議案第12号	仙北市病院事業使用料及び手数料徴収条例の一部を改正する条例制定について	3.12	原可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	
議案第18号	平成26年度仙北市一般会計予算修正案	3.12	修正可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	
	平成26年度仙北市一般会計予算			賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛
議案第24号	平成26年度仙北市後期高齢者医療特別会計予算	3.12	原可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	
議案第25号	平成26年度仙北市介護保険特別会計予算修正案	3.12	修正可決	賛	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	
	平成26年度仙北市介護保険特別会計予算			賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛
議案第30号	平成26年度仙北市病院事業会計予算	3.12	原可決	賛	反	賛	賛	賛	賛	退	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	
議案第54号	仙北市教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	3.12	原同意	投票裁決 (賛成15：反対5)																		欠			

一般質問



・ 一体庁舎整備と角館方
庁舎移転の今後の
方針について

仁政クラブ 高橋 豪 議員



今後の方針を問われている角館庁舎

質問 一体庁舎整備と角館庁舎移転の今後について

答弁 耐震調査の結果を踏まえ、危険箇所があれば今後どのような対応をするのか。

質問 調査報告書には施設が否か、補強が必要であればどのような補強が必要であるか等の判定結果が示される事になっている。この判定結果に基づき、市民の安全を第一に考え、耐震補強に要する費用、補強した場合、機能が損われ市民サービスが低下しな

いか等々を考慮し、必要な対策を講ずる予定である。

質問 市政報告で角館庁舎の一部に危険箇所があるという報告があったが、その上で今後も角館庁舎のみを最初に移転する考えはあるのか。

答弁 仮に調査結果が緊急な対応を要するというものであれば、補強工事や角館庁舎のみを先行して移転する事も考えなければならぬ。ただし、移転や一部機能の移転については一体型庁舎の整備と関連する事業であり、議会とも十分な協議をさせて頂きたい。

質問 一体型庁舎については、平成26年度中に庁舎整備基本構想を作成するところがあるが、今後はどのような手順で進めるのか。また、いつ

までに完成させるのか。

答弁 これまでの議会や市民からの意見等を十分吟味し、市民が庁舎に何を求めているか等、熟慮した上で市長案として最良の庁舎整備基本構想案を作成したい。これを議会に示し、協議を頂く事とあわせ、市民からの意見聴取、説明会の開催、パブリックコメント等の実施を考えている。

質問 以前の一般質問では、一体型庁舎については、中心市街地への設置は難しい旨の答弁であったが、これについては現在も変わらないのか。

答弁 様々な観点から、中心市街地への一体型庁舎の整備は物理的に困難と考えている。

質問 郊外に設置する場合のメリット・デメリットをどう捉えているのか。

答弁 ①整備面積などの庁舎配置等への制約が少ない。
②用地等が市街地と比べ価格が安い。
③庁舎周辺に新たなまちづくりが可能ではという点。デメリットは

①交通手段等で不便な点。
②市街地の衰退。
③他の公共施設と距離が遠くなり不便をかける点。

質問 一体型庁舎整備についての市長自身の考え方はまとまっているのか。

答弁 4月から庁舎整備推進係を設け、この係と短期的ではあるが集中的に議論をしていきたい。

若者・子育て支援と高齢者にやさしいまちづくりについて

質問 門脇市政2期目の若者・子育て支援策は。

答弁 子ども達にだけ大人としての責任を果たす事ができるかが今任期の大きな仕事のひとつと考えている。職場、働く場所の確保に一生懸命取り組んでいきたい。また、子育て支援についても、現在、民間企業との連携の中でメニュー作成を進めている。どこよりも子育てがしやすい自治体を目指し、内容・実態とも多彩なメニューを持ちたい。

質問 高齢者に優しいまちづくりをするための高齢者支援策は。

答弁 高齢者に対する支援に対してまちづくりの参画の機会と捉える事ができる。自助・共助・公助の考え方のもと、市民と共に考え協働事業と適切な支援策を進め、やさしいまちづくりを着実に進めていきたい。

市名変更について

質問 平成22年の一般質問で、市名変更によるイメージアップと経済効果は非常に大きなものがあると考え、知名度復活のため市名変更を求めた。このままでは、永年にわたり積み上げられて来た地域全体の歴史的ブランドそのものが人々の記憶から忘れさられる可能性も否定できな。こうした危機感を感じ、改めて市名の変更について伺う。

答弁 市名変更への市民の機運の高まり、盛り上がりを感じる事ができない状況にある。来年度は、一体型庁舎の議論を進めなければならない年であり、市名変更の議論をする必要性を見出す事ができない。

(田口寿宜記)

一般質問

・木質バイオマス発電の現状について



民政会議 安藤 武 議員

木質バイオマス発電の現状について伺う

質問

本事業について、今思い出されるのは、平成21年当時、私は、所管の産業建設常任委員長として、白熱した議論の中で意見をとりまとめた。委員会としては、他社との比較検討が出来ない。市民への説明が出来ない。時期尚早である！

これ等の事から、本委員会としては、反対の意見とした。しかし、本会議で採決の結果、賛成多数、原案を可とし、バ

イオマス事業がスタートしたのである。その起工式で議長代理として、挨拶に行った私は、「本バイオマス発電事業は、時間をかけて慎重に審査してきた。事業の先駆者として、仙北市民に又、日本に誇れる発電施設にしてほしい」と申し上げた。しかし度重なる稼働不良に陥り、昨年、月島機械自らの責任として大改修工事を行った。にもかかわらず、一向に改善はみられない。当局では、続行か否かを判断するために、検証委員会を立ち上げたが、現時点での推進状況を伺う。

答弁

当時の議会でも進むか否かの議論があった。事を、私は、議事録を見て知るしかなかった身分であった。当時から、その議論はまさしく、今の状況になる事を、予想されている議論の様子が伺える。議会としてその先見のすばらしさも感じている。また、今日本国内でこれ以上の方はおらないと言う最高権威者お三方に承諾いただいていた作業を進めている。

さらに、国、県からも実力を備えた方々に加わっていた。3月15日を目途に、私宛にその検証結果の報告書が届く手はずになっていた。

事業を継続か廃止か判断するに至る重要な報告書となる。

質問

本事業の継続が、是るか否かどちらにしろ、新年度予算にもりこまれ予算執行していく事になる。それにして、報告書の取りまとめが、3月15日では、私共、議会に与えられた議論する時間が少なすぎて遅きに失したと思わざるを得ない。

答弁

この点に対しては、おっしゃる通りで議会の皆様に申し訳ないと思っているが、先生方のスケジュールが噛み合わない等諸々の事情が重なり今日に至ってしまった。しかし、先生方は、日本のエネルギー再生という大きな視点の中で議論し、深く検証をいただいている点も、ご理解いただきたい。

質問

検証委員会の検査結果がここまで遅れたその原因は、何処にあるのか、トラブルの原因を調べ切れていないためと私には思えるが…。

答弁

非常に科学的な質問と受け止めたが、検証段階での先生方のお話では、ガス化炉内の温度が設定値に達していないことが、ト

ラブルの原因ではないか、と問題提起があった。

現在、ガス分析によるガス化炉内の温度測定をし、数値を精査している状況にある。そのデータを元に、対応、対策についての考え方も、定まってくる物と考えている。

質問

仙北市の山からの素材を用いるとしながら、共用するチップ材は一時的と思えるが、市外産を使っていると、確かな筋から聞いているが…。

答弁

仙北市産でないとするれば、事業目的に反する行為となり、問題は大きいわけであるが、調査したところ、原木は、仙北市産が使われていることに間違いはない。木材をチップにする際、一時的に市外業者から、納入になったと言うことであるので、どうか誤解をといいた

いただきたい。いずれ前に行くために審査委員会の方々と深く話し合いをもっていきたいと思っ

るので、今少しお時間をおかし願いたいと思う。

質問

木質バイオ発電で、今、成功しているのは「ガスによる蒸気で、タービンを回す」それ以外の成功例はない。能代にしる若松にし

る、この型で成功している。多量の木材を使用するし、廃材利用も出来る。地域住民にも、大変よろこばれている方式だ。我が市では、今更という事になるが。このトラブル続きの現状を、農水省や県では知っているのか。田邊副市長に伺いたい。

答弁 (副市長)

秋田杉木質バイオエネルギーの稼働状況については、国、県、地元出身の国会議員の先生にもお伝えしている。悪しき状況を打破する為の、全国から選びぬかれた、先生方で組織された検証委員会であり、県や市からもオブザーバーとして、会議に出席している所でもあり、内容についても十分伝えている。

(伊藤邦彦記)



本格的稼働が待たれる木質バイオ発電施設

一般質問

・武蔵野中央地区公共 用地の活用について

翠巒会 田口喜義 議員



武蔵野中央地区公共 用地の活用について

質問 ①武蔵野中央地区Cゾーン（市立多目的広場）の総合体育館・生涯学習センター整備構想の具体化は。

②老朽化による早期改修が必要とされる生保内体育館のマスタープランに沿った教育委員会の今後の進め方を伺う。

答弁 ①種苗交換会で活用し、今年度は田沢湖マラソン、国民文化祭で使いたい。平成28年3月までの次期総合計画に、総合体育館建設

の財源・管理手法等を検討し位置づけたい。

②（教育委員長）体育館の玄関部分の雨漏り工事と本体の屋根の修理も昨年行った。総合体育館は市の総合計画とリンクして考えていきたい。

仙北市の医療と市立角 館病院建設について

質問 ①2つの市立病院を本院と分院とし、連携

してお互いの役割を果たすとした計画の現状について伺う。

②「医療局としての機能は全く果たされていない」との特別委員会報告に対する市長の見解を伺う。

③市長は施政報告で「医師招聘活動は着実に成果を上げていく」と述べた一方で、就任時に「早ければ2年以内に道筋をつけたい」とした田沢湖病院の救急再開を一次救急だけでも再開できないか。

④仙北組合総合病院との新たな連携について伺う。

答弁 ①病院等改革推進計画であったが、今は病院の設置場所が2箇所に分かれていてイメージで、本院・分院という考えはない。

②医療局主導による医療体系の確立はなされていないとい

う認識である。しかし、医薬材料・消耗品の一括購入、委託業務の一元化等の事務的成果は上がっている。

③就任から4年半だが、市政公約である田沢湖病院の救急再開にはめどがつかない状況で申し訳ない。一次救急による対応が市民ニーズに應えるものか十分な検討を要すると考えている。

④大曲仙北地域医療ネットワーク事業がスタートしており、参加医療機関やかかりつけ医での診療を受けられるようになるので連携を図っていく。

市立角館総合病院の 建設費について

質問 ①用地取得総額②病院

本体の建設費③外構工事費④医療機器導入費⑤病院に関するインフラ整備費⑥27年に1億円、28年3億、29年2億2千万円の赤字の収支計画への対策は。

56億円から73億6千万円と建設費の大幅な増額となった原因について伺う。

答弁 ①から④までは前の特別委員会資料と同じである。⑤上水道や高圧電力等で3百万円程度と思う。⑥市で運営している場合は、

市民・活用される方の収益で運営をし、赤字が拡大する場合は、一般会計から医療に繰り出ししていく考えである。

労務単価、建設資材等の高騰、消費税の引き上げが原因であり、基本的な設計自体の変更が原因ではない。

自然災害に備えた危機管 理と地域防災について

質問 ①集落別の危険箇所説

明会で、避難場所や避難経路についても説明されたのか。

②消防団の課題及び災害時の出動について。

③防災無線の活用については一定のルールに基づいて行っているのか。

答弁 ①避難場所・避難経路については説明している。市からの情報が集落へきちんと伝わる事で迅速・円滑な避難行動へつながると思う。

②団員の確保が課題である。定員767人に対し団員数は603人（充足率78.6%）である。社会情勢が変わった事が要因と思う。災害時の出動は、災害救助捜索・災害復旧活動で述べ571人、水防活動で述べ302人、火災消

化活動で述べ372人の出動

状況である（2月1日現在）

③防災無線情報の発信の仕方、内容等については検討中である。

仙北市温泉事業の現状 と安定供給について

質問 ①温泉を安定供給する

為の課題は何か。

②モニタリング調査内容と期間はいつまで。

③新たな場所への掘削準備はどうかを伺う。

答弁 ①空吹2号井も年々出湯量が減り、高原分湯槽の加温ボイラーを稼働している。供給に最善を尽くしている。②源泉の温度、湯量は月1回、主要成分10項目の分析は年2回実施する。ガス分析、飲料分析は年1回。今年度は1月から3月まで温度・湯量3回、主要成分分析1回という実績で進めていきたい。

③温泉法があり掘削は困難だが、乳頭地区以外でも有力な源泉があれば出来るだけ早く掘削する必要があると認識している。

（熊谷一夫記）

一般質問



・財政力指数から見た 仙北市財政の現況と 今後

議員 藤原助一 翠巒会

質問 本市の財政状況は、財政力指数から見た場合、年々悪化していると思われる。将来について財政破綻の不安はないか。

答弁 財政力指数はだんだん低下している。大規模な工場等がない地方の小都市では、全国的に同じ傾向にある。義務的経費の抑制、公債費の減少により改善されると思っている。早期健全化基準では年々改善されている。今後も健全財政に最大の配

慮をして市政運営にあたりたい。

質問 監査機能の強化について最近、各地方公共団体の財務に関する不正事件が話題になり、監査機能を問う声もある。これまでの監査においては、地方自治法が期待する十分な監査と言えるのか。

答弁 (代表監査委員 戸澤正隆) 監査の指摘事項が改善されているかと受け止めて答弁する。監査は、決算・定期・財政経常健全化審査・工事・財政援助団体などの監査のほか、毎月の現金出納検査を行っている。指摘事項は、次の監査時までには是正措置を求め、法令等の解釈や事務処理においては、一定の効果を上げていくと認識している。収入未済の改善や滞納処分の債権管理に関しては、社会情勢の変化などの外部要因や財政事情などにより、一定の時間を要すると考える。事務事業にあたっては、全ての部門において、コスト意識を持つてもらいたい。今後も、監査のための監査に終始することなく、市民目線での監査を意識したい。

国政選挙の投票率の向上策について

質問 市議会議員選や市長選のように、市民に身近な選挙ほど投票率が高い。一方、参議院議員などの国政の選挙では、極端に低い投票率となっている。総体的な投票率の向上対策は。本市の投票率は、県内ではどれほどの水準か。

答弁 (選挙管理委員会委員長 佐々木昭雄) 地域と密接な市長選や市議会議員選挙では、投票率が80%前後と有権者の関心度も高い。国政選挙では低調傾向であり、一昨年の衆議院議員総選挙の投票率は約61%と県内25市町村中で第7位、13市中では2位である。国政選挙の投票率の低迷は全国的な傾向であるが、仙北市の実情に合った投票率の向上策に努めたい。

教育委員会の諸問題

質問 教育委員会の会議録の公開対応は。各小中学校での不登校の現状は。いじめや校内暴力、教師による体罰などの実態や対応は。

答弁 会議は教育委員会会議規則第9条で公開が原則であり、平成25年度からは概要をホームページで公開

している。不登校は1月末日現在で小学校3名、中学校9名で計12名と年々減少傾向にある。いじめについては、一時的な悪口などの軽微な事案として本年度は小学校4件、中学校6件の計10件が報告されている。いずれも、早期対応により、保護者を含めた当事者間の謝罪や反省、相互

理解が得られ重大化には至っていない。体罰事案の報告は皆無である。児童生徒へのアンケート調査やスクールカウンセラー、面談などを通じて、学校と家庭と教委との連携により、今後とも気の緩みのない取り組みを継続させたい。

(稲田修記)



教育委員会会議録の公開様子

一般質問



・ふるさと納税について

民政会議 狐崎捷琅 議員

ふるさと納税について
 テレビで放映された
質問 里、雑誌等でも紹介され、ふるさと納税については関心のある方も多いと思う。これは、仮にある他市町村の方が自分の所得税や住民税4万円をふるさと仙北市に寄付し、さらに仙北市発行の領収書を持って確定申告をすると2000円の手数料を差し引いた3万8千円が税金控除になるといふシステムである。

仙北市は、その方に感謝の意を込めて仙北市の特産品を贈るといふシステムでそのことによって仙北市の業者も助かるし、寄付した方も喜ぶし仙北市の財政面でも助かる。この財政難の仙北市でもぜひ取り組んでどうか。

答弁 県内24市町村で7市町村が特産品などのお返しを贈呈を行っている。一方、総務省からは、こうした取組みが過熱にならないようにという指導もされている。大好きな仙北市に何らかの貢献をしたいという思いを大切にしたいと考えている。具体的には、市の広報を1年間無料で交付するとか行事や近況が分かるような状況提供するか決め細かい取組みが何より大切と思う。

質問 過去3年間仙北市のふるさと納税の件数と金額を教えてください。

我が仙北市へのふるさと納税は段々少なくなっている。ふるさと納税は必ずしもふるさとでなくてもこの自治体に寄付してもいいというシステムなので市への税金が他へ流れることもあるので流れる以上に入ってくる工夫が必要でないか。秋田県人は宣伝が下手だと内館牧子さんも言っている。市長の答弁を聞いていささかびっくりしている、今後検討してほしいと思う。

答弁 平成23年11件で383万円、24年13件で223万円。25年18件で93万5千円である。

カヌーコースの再建に本市の積極的取組みを
質問 ソチオリンピックの感動の連続、スポーツとはこんなにも人間を元気にさせるものかとあらためて感じた方も多いと思う。ところで、国で作った生保内川と玉川の合流地点に作られた公認カヌーコースが先の集中豪雨で流された。当市に居住し、玉川でオリンピック選手を育てたロンドンオリンピックの男女の総監督、馬場昭江さんの落胆は計り知れないものがあったと聞いている。幸い、仙北市議会や秋田県議会で再建の請願が採択され、県では前向きにカヌーコース再建に進んでいるようである。ただ、心配なことは、同じ場所に作るとまた、コースが流されないか心配である。最良の流域コースは水の調整ができる温泉ゆぼの付近だそうだが県ではこの場所に難色を示している。川の中に工作物は作られないというの理由がどうだが、前のコースも川の中に建設されているし、青森の西目屋コースや富山県の八潮市のコースも川の中に作られている。

要は、自治体で如何に粘り強く要望していくかと言うことだと思いがどうか。また、広久内の橋付近にコースができると川下りなど観光面でも



カヌーコースの再建に（広久内橋付近）

大きなメリットがある。近くにホテルがあるためオリンピックの練習地として世界から選手を呼び込めると思うかどうか。

答弁 事業主体が仙北市でなく県なので県へ積極的に要望していきたいと考えている。川下りの構想や国際的観点から大切なコースと想っているので関係方面と一緒に是非取り組んでいきたい。

クリオンプールについて
質問 クリオンプール調査費の予算もつき、いよいよプールが再開出来ると期待していたが当初予算にはもられていない。サッカーくじの助成についても検討したのか。

どうして予算からカットされたか経緯を説明してほしい。

答弁 (教育長) プールの改修費がかかる。サッカーくじの助成についてもクリアしなければならぬ問題が残っている。今後、皆さんの色々な英知を集めながらプールは必ず作るように頑張っていくのでご理解を賜りたい。

(阿部則比古記)

一般質問

- ・子ども議会を市政に活かすために
- ・「文化の殿堂」市民会館の今後について



仁政クラブ 田口寿宜 議員

子ども議会を市政に活かすために

1月9日に開催された子ども議会において、質問された事柄3点について、今後どのように具現化していくのか伺う。

①東京オリンピックピックや2018年韓国ピョンチャンの冬季オリンピックの際、選手の合宿所として仙北市を活用する方法はないか。また損壊した生保内カヌーコースが修復できれば国内外チームの合宿誘致は可能であると考えられるかどうか。

②合宿誘致が成功した場合やモーグル国内及び国際大会において、もしもの場合の救急体制は田沢湖病院で可能か。
③通学路の歩道の除雪体制は万全か。官民一体となって一斉除雪デーを設ける意向はないか。

答弁（教育長） ①について：2018年ピョンチャン冬季五輪については、県と共に韓国、中国台湾に対し、県営田沢湖スキー場の良さをアピールし積極的に仙北市を売り込みたい。全日本チームの合宿所としても最敵の環境にあると思う。カヌーコースの復興の救済は県に強く働きかけ、競技のオリンピック代表選手の強化合宿の誘致やプレ大会の開催を日本カヌー協会に呼びかけていきたい。

答弁（教育長） ②について：モーグルワールドカップ大会期間中は、市が要請して全日本スキー連盟から医師が派遣される予定である。陸上自衛隊からは救急車両などの協力がある。ドクターヘリの要請もおこなう。本市の医療機関、田沢湖病院や角館病院の協力も得ながら安心安全な大会を目指したい。

答弁（市長） ③について：夜間の通常の除雪で市が

管理する主要幹線道路を主体としてバス路線、通勤・通学路の除雪を優先している。一斉除雪作業については、多くの意味合いがあると認識している。子どもたちは、地域住民の協働作業体験、社会貢献に対する意識の醸成など除排雪作業から学ぶことができ。通学路の危険箇所除雪については、町内会、集落会、学校、PTAの皆さんと話し合う場面をもちたい。

「文化の殿堂」市民会館の今後について

質問 文化は人によって生み出される。人によって生み出された多様な文化をどのようにして「文化の殿堂」市民会館で活かしていくのか。文化に対する市のビジョンは。

答弁 芸術文化作業、音楽、美術、映像等の育成をしたいと思っている。次世代育成で累代にわたる文化力、一方で新しい文化と芸術を発信できる市民力を育成したい。人の育成をしたいと思います。文化は一人一人の生活を、人生を豊かにするだけでなく、まちの姿や産業に多大な影響を及ぼす。田沢湖芸術村とも連携しアートディレ

クターの育成など人材育成にも意を配しながら仙北市を国際観光都市に成長させたい夢を描いている。

質問 市民会館の活用が十分にされていないのではないかと。

答弁 2つ考えられる。一つは財源確保に行動。行為が積極的でない。二つ目は、文化を担う、文化創造を担う、もしくは継承していくという市民の方々の文化活動に対する取り組みのエネルギーが拡散している可能性がある。

4月以降事業移転室を設置し民間への事務事業移転を進めたい。民間の方々が自由闊達な活動の拠点として、使

勝手が良くて使いやすいことが重要と考える。

答弁（教育長） 芸能面では、民俗芸能、民謡をきちんとした形で継承し保存して、地域文化を発表、発展させていく場を市民会館が担っている。文化の殿堂と

芸能の発表だけでなく、ダンスや歌等の発表の場としても、もつと活用して文化のレベルを上げたい。

交流人口と定住人口の増加策について

質問 祭りやイベントの多い本市の特性を生かした交流人口の増加策について伺う。

答弁 祭りの目的や役割を認識して継承し観光的な部分は観光客にも楽しんでもらいたい。

質問 若い世代は、人口減に危機感を募らせている。定住人口増加策を伺いたい。

答弁 現在強力に進めている雇用場の創出、産業振興政策は最善の策とされている。また、災害を防ぐまちづくり体制をつくるのが大事と考える。

(平岡裕子記)



より良い利活用が望まれる市民会館

一般質問



・本市景気回復の「桜祭り」について

侍志の会 八柳良太郎 議員

本市景気回復の「桜祭り」について

質問 まちづくりの基本となる観光産業の実態について伺います。昨年6月に質問した際に、「桜祭り」経済効果69億、波及効果100億以上と言われても実感がわかない。それ故具体的に質問する

①宿泊数とその経済効果、日帰り数とその経済効果か。
②美人100人キャンペーンTIC事業、「桜祭り」での販売の費用対効果は。

「桜祭り」には140万人の観光客に来ていただいているが、その経済効果費用対効果については私どもの計算式があるので後ほど議員に提出したいと思う。

100人キャンペーンについても同様である。
TICについては現状では300万円ぐらいの売りあげがあったが職員の人件費を考えると胸を張れる状況ではない。

桜祭り屋台の費用対効果についても後ほどまでに精査出来ると思っている。

観光客に買っていただけのための商品について

質問 観光客に商品を買って頂くためには様々なサービスが今後考えられる。市長は、観光客に対するクーポン券はよくてプレミアム商品券は交付税を使ってはいけないと考えているようにだがおかしくないか。県外人に対するクーポン券配布も直接であれ間接であれ、県外の人に税金をあげたことにならないか。

そこに居住をしている方々が今一つ整理がつかないという

い。仙北市にそれを許容する財源あるのであれば交付税の削減につながる可能性のあることを心配している。

観光イベントの検証について

仙北市が将来、東北の観光拠点を目指すならイベントをやった場合でも、新聞に載ったからそれで良いのではなく、その効果について常に検証していくことが大切でないか。

公約に対する検証は検証委員会の方々がやっているわけであるが、公費を使ってその事業を行ったときのその効果を何と見るかというところが多分私どもの行政の中で欠落していた部分ではないかと思っている。今後、この点を改めて検証していきたい。

観光客におもてなしの心を

質問 「観光を生かしたまちづくり」という基本理念について市民に周知徹底されているとは思えない。市全体でおもてなしが必要だと思

合併当時、観光を生かしたまちづくりという理念があった

たはずだが、市民の中には「あんまり関係ない」「観光では飯は食えない」と思っている方が多い事も事実だと思う。

これは、非常に残念なこと
で合併の理念が交流都市を目指して言うことだったのではなさうである。「よくおざつてけだしな」というおもてなしの心が大切でないか。ひとつ市長が先頭にたって市民に呼び掛けていく必要があると思うがどうか。

議員が提唱した全市民挨拶運動は市民に多くの恩恵があることなのでぜひ取り組んでいくことをお約束する。

お花見シーズンに駐車場が少ないと言われている。市民に駐車場の提供を呼び掛ける案はないか。

お花見シーズン中駐車場は2200台程度と推計しているが、まだまだ不足だと思っている。今後検討したい。

松木内川の右岸の桜がテングス病のためと思うが絶滅寸前である。桜の保存管理のための基金を積み立てていく必要があるのではないか。

桜の管理費は予算がないからという話ではないかと思うので検討に入りたい。

(狐崎捷瑠記)



観光客に「おもてなし」の心を



総務文教常任委員会

当委員会に本会議において付託された議案は、条例関係5件、平成26年度集中管理、生保内財産区・田沢財産区・雲沢財産区各特別会計予算4件、平成25年度集中管理、生保内財産区・田沢財産区・雲沢財産区各特別会計補正予算4件の計13件である。

また、予算常任委員会より平成26年度仙北市一般会計予算並びに平成25年度仙北市一般会計補正予算(第13号)の内、当分科会に係るものが分担された。

■議案第1号
総務部及び教育委員会に係る消費税法及び地方税法の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
問 消費税法上、一般会計で扱う事業は納付義務が生じない事になっているが、国や県の指導はどうなっているのか。また、他の自治体はどのように対応しているのか。
答 施設を維持管理するにあたって、費用の負担には消費

税が発生している。消費税本来の趣旨からして、適正な受益者負担、適正な転嫁をすべきという国の指導もあり、その方向で転嫁していく。

他の自治体の対応については、12月議会現在で聞き取りをした範囲では、ほとんどの市町村で料金改定を予定している。

●採決の結果
議案13件については、全会一致で原案を可とすべきものと決定した。

■議案第18号
平成26年度仙北市一般会計予算
総務部関係
問 地域運営体での提案型特別交付金とまちづくり協働条例に基づいた提案型の補助金内容がだぶっているのではないか。この性質の違いをどのように理解すれば良いのか。
答 運営体の提案型特別交付金は、各運営体または複数の運営体が連携して広域的に取り組む事業、あるいは、これまでの取り組みを拡大した先導的で他の運営体のモデルに

なり得る事業、その他市長が認める事業としている。まちづくり提案型補助金は個人・団体を対象にしており、運営体は補助対象にしていない。
問 特別交付金の狙いは何か。また、事業の内容によっては最大、上限900万円の交付になる事もあるのか。
答 500万円の枠の中では、それぞれバラつきがあり、事業を選択する際、事業の幅をフレキシブルに出来るような形が望ましいと考え、この枠を設けた。最大、上限の900万円になる場合もない訳ではないと考える。
問 まちづくり提案型補助金は、活性化を目指す上で個人・団体等に補助金を支出する訳だが、地域運営体の関わりも含め、あいまい且つ明確になり切れていない部分があるがゆえに、色々な問題・課題が発生するものと考えられる。この際、自治基本条例を制定し、それぞれの役割等を明確にした上で進めて行く時期に来ているものと考えられるか。
答 事例・事業を調査研究し検討していきたい。

教育委員会関係
問 武家屋敷や桜の管理の財源を、例えば観光客から募金

をして頂くなどの方法が考えられるが、この2つの管理に特定した財源の確保策についての考えを持っているのか。
答 良いアイデアと思うが、様々な面を含め、関係部署と十分に時間をかけて検討していきたい。
要望
歴史遺産を保存するため協力費として頂くべきでないか。
現存する桜をどう保護するか、全体的なものを含めて計画を検討して頂きたい。

■議案第36号
平成25年度仙北市一般会計補正予算(第13号)
繰越明許費の内、企業誘致対策事業費について質疑があった。
問 繰越の理由、補正の在り方について。
答 緊急性を持って補正計上

急ぐあまりに補正計上した結果で、このような状況になったものと考えられる。腰を据えて事業実施すべきであり、今後、大きな事業に対する予算措置の在り方を検討すべきである。
(田口寿宜記)

意見
をしたが、諸々の事情により執行されず繰越明許とした。大変申し訳ない。



総務文教常任委員会審査風景



市民福祉常任委員会

本会議より付託された案件は、議案13件、予算常任委員会から分担された案件は、議案2件である。

■議案第2号

市民生活部及び福祉保健部に係る消費税法及び地方税法の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

問 クリオンの入湯料が消費税引き上げ後も同じ400円なのはなぜか。
答 入湯料には150円の入湯料が含まれている。400円から150円を引きさらに消費税額5%を引き、その額に増税後の8%分を足しても、増額が10円未満切り捨てになるので400円のままである。

反対討論

公共施設には、消費税法60条6項により消費税の納付義務がない。増税の中止を求め運動も展開していることから、本案には反対である。
賛成多数で可決

■議案第6号

仙北市基金条例の一部を改正する条例制定について

■議案第8号

仙北市障害程度区分認定審査会の委員の定数を定める条例の一部を改正する条例制定について
共に全会一致で可決

■議案第12号

仙北市病院事業使用料及び手数料徴収条例の一部を改正する条例制定について

反対討論

公共施設には、消費税法10条6項により消費税の納付義務がないので反対する。
賛成多数で可決

■議案第23号

平成26年度仙北市国民健康保険特別会計予算
全会一致で可決

■議案第24号

平成26年度仙北市後期高齢者医療特別会計予算
平成26年度は保険料の改

正時期に当たるようだが、改正後の保険料の見込みはどうなっているか。

問 平成25年度の決算見込みによる剰余金は14億7800万円。それに県の財政安定化基金9500万円を活用することによって現行の保険率を維持できる見込みである。
反対討論

反対討論

秋田県後期高齢者医療連合の特別会計では、51億円を超える収支差引残額があり、保険料の負担軽減に繋がらないので本案には反対である。
賛成多数で可決

■議案第25号

平成26年度介護保険特別会計予算
全会一致で可決

■議案第30号

平成26年度仙北市病院事業会計予算
問 公営企業法の会計制度見直しにより、平成26年度から退職される方を除く全職員の退職給付引当金繰入額等が計上され、予算の支出額が大幅に膨らんでいる。引当金の計上を義務化した理由は何か。

答 できるだけ民間の会計手法に近づけることと、将来の特定費用も含め、自治体で運

営する事業の経営状況を住民へ開示することが目的である。

問 角館総合病院資本的支出、建設改良工事費の35億3000万円の内訳は。
答 本体工事と外構工事を合わせて34億8394万円。他に、設計監理費、各種工事に伴う負担金等である。

問 病院建設に当たり、一般会計からの持ち出しはいくらになるか。
答 病院事業債は、元利償還の2分の1、過疎債は元利償還の7割が交付税算入となる。残りの2分の1、3割は病院事業で払うため、一般会計からの負担はない。

反対討論
田沢湖病院と角館総合病院の経営改善を求める。

賛成討論
病院の理念を不転の覚悟で徹底することを望む意見を付す。

採決結果
賛成3、反対3の同数となり、委員長裁決で否決

■議案第35号

平成25年度仙北市病院事業会計資本剰余金の処分について

■議案第41号

平成25年度仙北市国民健康保険特別会計補正予算(第4号)

■議案第42号

平成25年度仙北市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

■議案第43号

平成25年度仙北市介護保険特別会計補正予算(第3号)

■議案第48号

平成25年度仙北市病院事業会計補正予算(第2号)
以上5件全会一致で可決

平成26年仙北市一般会計予算
市民生活部関連
民生費
福祉医療費2億2151万2千円

問 子どもに対する医療費の助成について、現在の適用範囲からの拡充をどのように検討されたか。



答 中学生通院分を検討した。財源確保が難しい。歯科通院分などを今後検討する。

衛生費

公共施設再生可能エネルギー等導入事業費1億6142万円

問 事業の内容は。

答 環境省の100%補助事業である。災害時の避難施設となる公共施設に再生可能エネルギーを活用した設備を導入する。市内12小中学校に夜間避難誘導のためのハイブリット街灯、神代出張所には太陽光パネル、角館交流センターのホールの照明LED化を予定している。

問 学校体育館などの避難所に蓄電設備が必要でないか。

答 内部も検討したが、増設は補助対象外となる。

消防費

問 災害時の避難場所と経路について自主防災組織を立ち上げてから検討したいとのことだが、事前に防災計画の中に入れるべきと考える。

答 避難場所を決めた後に、災害の状況に応じて避難手段や経路を検討する。自主防災組織を立ち上げ現地の細かい情報を得られるよう体制を作

り地域との連携を密にした

い。

問 消防団員不足解消に当たり、役所退職職員や経験者を災害時に出勤してもらうような体制は取れないか。

答 機能別消防団制度は検討したうえで取り入れたい。

問 火災が発生した場合、以前は防災無線やサイレンで住民に周知していたが、現在はどうなっているか。

答 火災を実際に確認してからサイレンを鳴らすようにしている。サイレンの前に分団長の連絡を入れていく。消防団の招集を早く行う方法を検討したい。

福祉保健部関連

高齢者世帯等除雪支援事業費1806万6千円

問 非課税世帯を対象に実施するようだが、周知の方法は。

答 市の広報や窓口等で周知する。今のところ市から直接案内することは考えてない。

問 利用券は、雪下ろしや排雪にも使えるように柔軟な対応が必要でないか。

答 あまり縛りの無い制度にしていきたい。

衛生費

仙北組合病院救急医療運営費

補助金730万円

問 組合病院の救急医療が不採算のための補助と説明を受けたが、角館病院も救急医療を行っているため同じような考え方にならないか。

答 角館病院は、救急医療の分として交付税が加算されている。組合病院は自治体病院でないためこれまで交付税参入がなかった。制度が変更となつたため交付税に仙北組合病院分が加算されている。その支出である。

平成25年度一般会計補正予算(13号)

障害者住宅整備資金貸付金300万円

高齢者住宅整備資金貸付金300万円の減額について

問 貸付の要件は。

答 高齢者に対する貸付は、高齢者、障害者の為の増改築が目的である。

限度額が150万円で平面図等を提出いただいている。

問 連帯保証人の要件を仙北市内に限っているようだが緩和できないか。

答 制度が昔のままなので、今後検討したい。

(平岡裕子記)



産業建設常任委員会

本会議より付託された議案は24件、請願1件、予算常任委員会より分担された議案は2件である。

排水事業特別会計への繰入れについて

■議案第16号 平成26年度仙北市浄化槽事業特別会計への繰入れについて

■議案第17号 平成26年度仙北市簡易水道事業特別会計への繰入れについて

■議案第20号 平成26年度仙北市下水道事業特別会計予算

■議案第21号 平成26年度仙北市集落排水事業特別会計予算

■議案第22号 平成26年度仙北市浄化槽事業特別会計予算

■議案第29号 平成26年度仙北市簡易水道事業特別会計予算

■議案第31号 平成26年度仙北市温泉事業会計予算

■議案第32号 平成26年度仙北市水道事業会計予算

■議案第33号 平成25年度仙北市集落排水事業特別会計への

■議案第3号 平成26年度仙北市集落排水事業特別会計への

■議案第10号 仙北市森林総合利用施設条例の一部を改正する条例制定について

■議案第11号 仙北市温泉条例の一部を改正する条例制定について

■議案第14号 平成26年度仙北市下水道事業特別会計への繰入れについて

■議案第15号 平成26年度仙北市集落排水事業特別会計への

繰入れ額の変更について

■議案第34号

平成25年度仙北市水道事業会計資本剰余金の処分について

■議案第38号

平成25年度仙北市下水道事業特別会計補正予算(第2号)

■議案第39号

平成25年度仙北市集落排水事業特別会計補正予算(第2号)

■議案第40号

平成25年度仙北市浄化槽事業特別会計補正予算(第2号)

■議案第47号

平成25年度仙北市簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)

■議案第49号

平成25年度仙北市温泉事業会計補正予算(第2号)

■議案第50号

平成25年度仙北市水道事業会計補正予算(第3号)

■議案第51号

市道の変更認定について

■議案第52号

市道の認定について

◎上記24議案については全会一致で可と決定

■平成25年請願第4号

久保川第2本流改良促進に関する請願書

継続審査としていた本請願については、受益者及び地域住民と請願者の考えに相違があるなど、更に慎重な審査が必要を、継続審査とした。

■議案第18号

平成26年度仙北市一般会計予算

【歳出】

問 新年度からの国の農業政策はどのような認識で予算計上されているのか。

答 国の新しい農業政策として4つの改革を主としてしている。農地中間管理機構の創設、経営所得安定政策の見直し、水田フル活用とコメ政策の見直し、日本型直接支払い制度の創設の4つを目玉として改革を進めている。農地中間管理機構では農業公社の改革。経営所得安定政策では10アール当たり1万5千円が7500円になった。水田フル活用では飼料用米の作付けを重点的課題としてやる事になる。5万5千円から

10万5千円の範囲で数量に応じて実施していく。日本型直接支払い制度は、農地・水対策に変わるものとして約2500万円の予算を予定している。今後、転作の説明会を含めて進めていきたい。

問 木質バイオマス施設管理運営費について

国・県・メーカーに対して検証委員会からの報告が出てきた段階で、強く働きかけて、いつごろまで運転するのか、時間的に明確に示して頂かないと税金を垂れ流しするような予算は、認められないとの意見がある。市長の考えは。

■議案第36号

平成25年度仙北市一般会計補正予算(第13号)

【歳出】

問 企業誘致対策事業費について

企業誘致の進捗についての報告の中で、用地交渉は1人の所有者から内諾を得られていない。水の問題、まだ現地法人を立ち上げていない等色々問題を抱えている。急がないといけないとして委員会では補正予算を認めてきたが、今回繰越しとなるという。当局では、補正予算のあり方をどのように考えているのか。最初からチームなり作って担当窓口も一貫して進めて

る対応である。報告書が提出された後にしっかりと協議を行いたいと思っている。すでに日程調整に入っている。

決断する時期が、具体的に6月補正予算の時に話せればいいが、そうでない状況が外部にもある事から時期の返答は差し控えて頂きたい。

計上している当初予算、約7600万円については認めて頂きたい。これを計上する事で国・県の事業メニューの作成にもプラスになると思っている。

いれば、スムーズに事が運べたのではないかと。今後どういう体制にするのか。

答 昨年10月の臨時議会です算を認めて頂き、多くの課題があり、解決に至らなかった事はお詫びする。予算を認めていただいたおかげで多くの課題解決が出来た。交渉がまだ決着せず、結果繰越しとなった事は申し訳ないと思っている。

今回の事を反省し、来年度から商工課に窓口を一本化したい。案件によってはそれを支えるチームが必要である。市全体で支えあう仕組みを構築したいと考えている。(熊谷一夫記)



きれいな牛舎で育つ仙北夢牧場の肥育牛たち

市立角館総合病院建設に関する調査特別委員会報告

特別委員会報告中、前段の病院特別委員会設置について並びに基本構想は前号掲載のため省略します。

患者の待ち時間短縮を図るため、準備が整い次第としながらも、電子カルテの導入が予定されています。

他方、移転建設後の病院経営において、懸念される点も、多く指摘され、本特別委員会として、提起事項としてまとめています。

1 医療体制について

仙北市の医療体制については、医療局を設置した初期の目的である「市立病院と診療所の経営を医療局の傘下に置き、医療局主導による仙北市の医療体系の確立」に向けた機能が果たされていない。しかし、地域医療として救急体制は、どうしても維持し続けなければならぬ。

全国的にも自治体病院の経営は、極めて厳しい局面を呈しているが、地域医療を守り抜くために、以下の事項について提起する。

- ① 常勤医師の確保対策を強化
- ② 現在の医療体制を見直し、組織として市立角館総合病院内に医療管理者を置き、統括させ、管理者主導の医療体系を構築すること。
- ③ 医師を含めた全ての医療スタッフは、患者へのきめ細やかな、やさしい対応を徹底することにより、市民に誇れる病院を目指すこと。
- ④ 著しい人口減少の激化に伴い、両病院の経営方針について、抜本的な見直しを図ること。

2 市立角館総合病院について

① 建築工事に際しては、地元業者が建築工事に参入できるように、工事入札にあっては、指名業者を大曲・仙北地区を範囲として、下請け方式ではなく、JV方式により、地元業者の参入を促進すること。

② 敷地内の除雪方式として、融雪方式を検討すること。

③ 設備全般においてメンテナンス費用を考慮し、経費節減に努めること。

3 市立田沢湖病院について

① 救急再開に向け最大限の努力をすること。

② 当面、田沢湖病院は、慢性期の療養型病院を基本とし、障害者等一般病棟の見直しを図ること。

③ 玉川温泉を利用している患者を取り込む工夫により経営改善を図ること。

これまでに、先進病院の視察研修も含め、17回の委員会を開催してきました。当局に對しては、非常に厳しい指摘もしてきましたが、可能な範囲で、基本設計に取り入れていただいた事は評価する一方で、利用者の利便性の追及に對しては、医師不足と財政難という大きな壁に阻まれた感もありました。

昨今の自治体病院が抱える課題は、医師不足をはじめ、一層進展する医療の機能分化等々、山積しています。加えて、人口減少と高齢化の急速な進行が、自治体病院の経営に、さらに追い打ちをかけることとなります。しかし、地域医療を支える

ことは自治体の使命であり、とりわけ市内の救急体制の確保は命題であります。市立角館総合病院の移転建設を契機として、より市民に信頼される医療体制が充実され、ることを願ひ、本特別委員会の報告に代えさせていただきます。

(八柳良太郎記)

教育委員会教育長による指導監督の徹底強化を求める決議

教育委員会を主宰する教育委員会委員長交替という重要案件にもかかわらず、議会への報告を欠いたことは、議会に對して一変の誠意を示す姿勢もなく、議会軽視の一語に尽きるものであり、極めて遺憾である。

非常勤の教育委員が月に1〜2回集まり、合議制で運営される現行制度は意志決定が遅く、責任も曖昧になり易いとは言え、教育委員会教育長の責任の欠如と指摘せざるを得ない。よって、市議会では、教育委員会教育長に對し、今一度、自らの姿勢を正し、教育基本法が掲げる理念に則り、教育委員会事務局職員の指導監督の徹底強化を強く求めるものである。

以上、決議する。

平成26年3月12日
仙北市議会

感謝状

株式会社 新潮社
代表取締役社長 佐藤 隆信様

貴社は多年にわたり本市文化の発展のため多大なるご尽力を寄せられたことは洵に感謝に堪えない次第です。依ってここに秋田県仙北市市民と共に仙北市議会の決議を持って感謝の意を表します。

平成26年3月24日
秋田県仙北市議会

「苦勞様でした」
勇退される議員



佐藤峯夫 議員



田口喜義 議員

情熱に燃え、議員になった。議会運営や予算の見方、眼の付け所が間違っていると感じた。世間の見識や抱負が生かされない。住民の期待にそいたいと思いつつ、続けた20年間でした。



藤原助一 議員

仙北市の発展と皆様が安心して暮らす町づくりの実現の為に頑張ってきました。旧田沢湖議会から仙北市議会議員併せて都合20年の長きに亘り仙北市発展に貢献して

頂いたところであります。ありがとうございます。



佐藤直樹 議員

平成の大合併、仙北市の誕生、議会改革、激動の10年間でした。体調を崩し議員活動にピリオドをうつ事にしました。これまで多くの方々にご支援を頂き感謝いたします。

田邊浩之副市長退任



平成24年7月1日、当市副市長として就任されました。

現在まで1年と9ヶ月の政に寄与され市の発展に尽力されました。2月定例会の最終日3月12日に議場にて退任の挨拶をされました。ありがとうございます。今後は農林水産省へ戻る予定。
(八柳良太郎記)

市長の統轄責務の徹底を求める決議

田沢財産区管理委員の「任期の失念」、および度重なる「議案の誤り」については、市長の統轄責任者としての注意力の欠如と指摘せざるを得ない。

市長は、今一度、自らの姿勢を正し、地方自治法第147条及び第148条にのっとり、部下職員の指導監督の強化徹底に努めなければならない。

よって、本市議会は、統轄責任者としての市長に対し、以下の徹底を強く求める。

- 1 地方公務員法に定める職務に専念する義務の徹底。
 - 2 管理職員による管理監督の徹底。
 - 3 業務遂行にあたり、二重三重の確認体制の徹底。
- 以上、決議する

平成26年2月18日
仙北市議会

人事案件

○仙北市教育委員会委員再任
熊谷 徹 氏 (角館町岩瀬) 任期26年4月1日～30年3月31日
無記名投票の結果、賛成15
反対5で同意された

○監査委員 再任
戸澤 正隆 氏 (角館町山谷川崎高野) 任期平成26年5月9日～30年5月8日

○人権擁護委員 新任
茂木 一代 氏 (角館町小勝田中川原) 任期平成26年7月1日～29年6月30日

訂正とおわび

議会だより第33号において感謝状贈呈議員の名前が間違っており、訂正すると同時に、議案の賛否表に「真崎寿浩」議員の賛否が掲載されなかったことに対しお詫び申し上げます。

正 佐藤峯夫
誤 佐藤峯男

議案第105号 平成24年度仙北市一般会計決算：賛成

議案131号 平成25年度仙北市一般会計補正予算：賛成

議員提出議案第17号 市立保育園・幼稚園のあり方に関する決議：賛成

編集後記

決断
本議会の「名議長」と言われている佐藤峯夫議員が引退されることになった。
2月定例会の打ち上げの3月12日議会主催の交換会時、退職議員の挨拶、幹部職員の挨拶、議長挨拶も終え、一通りのセレモニーが終わったあと引退の気持ちを表明したのである。

その引き際の決断には皆唖然とした。
議長は主導した「議会改革」を組織的に丁寧に進めてきた。
議会は行政の下請け機関にあらず、政策を掲げてこそ二元代表制のめざす道であることを力説した。議長にとつてはまだ道半ばであったに違いない。

議会だよりの新聞は9人の議員が編集・発行の全てを受け持っており、それぞれ頑張ってきたが間違ってもなかった。市民の皆様にはこの2年間さまざまご指摘を頂きながら「愛読を頂き誠にありがとうございました。」

(八柳良太郎記)